

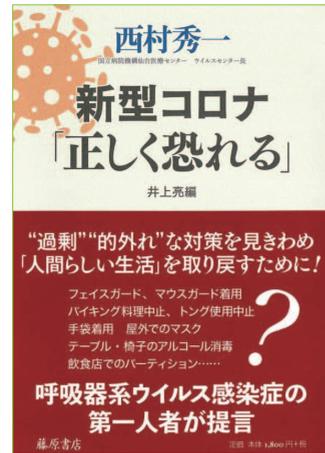


『新型コロナ「正しく恐れる」』
藤原書店 一八〇〇円＋税

西村秀一（聞き手） 井上亮編

コロナと自治研

オンライン自治研でもそうだったし、今月号の特集でも、コロナと自治体のテーマは気になる。保健所職場はどうだったのだろうか。大変だろうな。もちろん大変だった。しかし職場の当事者に話を聞くと、むしろ淡々としていて、いきり立つところがない。PCR検



査にしても積極的疫学調査（感染者に保健所職員が電話をかけて、感染経路やその後を聞き出す）に対しても効用や限界をわきまえている。現場のことは現場に聞くのが一番だ、と自治研を自慢したくなる。

ウイルスセンター長

この職場の感覚を伝えられる本を探した。本書を見つけて一ヶ月で紹介しようと思つたが、締切までに出版が間に合わなかった。著者は西村秀一、仙台医療センターウイルスセンター長だそう。この病院は、もとは仙台国立病院、その前は明治に仙台鎮台病院、衛戍病院。

著者はもちろん医師だ。しかし、アメリカの歴史学者クロスビーの『史上最悪のインフルエンザ』（みすず書房）の訳者でもあった。クロスビーのこの本は名著だと思つたが、大きすぎて高すぎて（四四〇〇円＋税）お勧めできなかった。

これは変だぞ、コロナ対策

本人が登場する本書では、著者の経験が語られている。山形県出身、アメリカのCDC（疾病対策予防センター）で研究し、感染症の勃発のときは、香港、台湾と駆けつける。今度はダイアモンド・プリンセス号にも乗り込んだ。その経験の上で、ウイルスの特徴（著者は呼吸器系ウイルス感染症が専門）、感染の特徴（発熱感寒、差別が身をもたげる社会と歴史、専門家と政治家の変さ加減が縦横に語られる）。

本書は東京と仙台の間で、Zoomのインタビューで作られた。これも時代だろう。附として「これは変だぞ、コロナ対策」がついている。いろいろ変な対策が列挙されていて最後の方に「地方議会での質問時間の短縮化と制限」があげられている。そうだとおどろだ。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員

グラビア	地域を支える人 高橋祐樹さん+山崎慎也さん・長野県	1
給食のじかん	〈だだちゃ豆サラダ〉 山形県鶴岡市	伊藤英子 6
書評	西村秀一 著『新型コロナ「正しく恐れる」』	菅原敏夫 8
焦点	石垣島にみる住民自治の現在地 ——住民投票と自治基本条例をめぐる動きから	新垣二郎 10

特集 ウィズ・コロナ時代の自治研活動
～オンライン自治研報告～

座談会	第三八回地方自治研究全国集会の経緯と概要	自治研中央推進委員会事務局	16
全体集会 パネルディスカッション	オンライン自治研とこれからの活動	染 裕之+藤田和彦+ 本田恵美子+山崎幹生+ 林 鉄兵	20
特別分科会1	ウィズ・コロナ時代の自治研活動 ——持続可能な活動の推進にむけて	橋本和久	29
特別分科会2 パネルディスカッション	SDGsを自治体で実践するには	森 祐美子+永田龍太郎+ 林 鉄兵+蟹江憲史	37
各県自治研 活動レポート	AIと基本的人権	大屋雄裕	47
連載	コロナ禍における医療・保健の最前線	黒田 藍+荻原ちさ都+ 榎本真聿+小林郁子	53
	コロナ禍にある飲食業を自治研活動で応援！ 鹿児島県本部	田ノ上伸吾	62
	『月刊自治研』を読む〈第五季〉 [◎] 輝きを放つ 栄村の住民自治	篠田 徹	64
	自治研センターの機関誌案内		71
	次号予告・編集部から		72